



4 ミラクル・クエスチョンのバリエーション

「ミラクル・クエスチョンの極意は、ピヨーンと飛ばすこと」だという話をしてきました。「ど、うやつて、奇跡を起こすか？」ではなくて、「奇跡が起こったとしたら、どうなっているか？」というふうには、奇跡の世界にピヨーンと飛んで行って、それを見てくるということに、ミラクル・クエスチョンの真価があるのです。つまり、「ピヨーンと飛ばす」という「構造」こそが、ミラクル・クエスチョンであるということです。

このことを逆に言うと、この「構造」がありさえすれば、別に定型のミラクル・クエスチョンの文言を使わなくてもよいということにもなります。飛んでいただけならば、それでいいのです。

この節では、ミラクル・クエスチョンのバリエーションをご紹介します。

使い勝手がいい、ドラえもんの道具

例えば、小さなお子さんなら、「奇跡」なんて言うより、「どこでもドア」とかのほうが、よっぽど飛んで行きやすいですね？

君はどんな世界に行きたい？「ここ」「どこ」でもドア「があるよ。一緒にこのドアをくぐってみようか？行くよ。せえのぉ、ピョーンー！ピョーンー！ピョーンー！君は回ってるの？」

小さなお子さんにはドラえもんの道具は使い勝手がいいですね。「ドラえもんポケット」なんかもいいですよ。

ドラえもんにポケットからどんなもの(アイテム)を出してほしい？へえ、そういうのが欲しいんだ!?ほら、出たよー！そうしたら、どんなことが起ころう？

これ、完璧ミラクル・クエスチョンです。

RPGを利用したミラクル・クエスチョン

もうちょっと年齢が上がって、ドラえもんではちょっと厳しくなってきたら、ゲームがあります。ゲームって結構使えるんですよ。特にRPG（ロールプレイングゲーム）は。RPGには、「アイテム」が付きものです。だからそれを利用して、子どもたちに

どんなアイテムが欲しい？それが手に入ったとしたら、どうなると思う？

ってやってあげるのGOOD！これなら中学生ぐらいでも十分使えます。

RPGには、「アイテム」だけでなく、「スキル（技）」というのもありますね。これも使える。

どんなスキルを獲得したい？そのスキルを獲得したとしたら、どうなると思う？

さらにRPGには「レベル」というのがあって、主人公たちはどんどん成長（レベルアップ）していくわけです。これを使わない手はない！**「君、いま何レベル？1レベル？そうか。じゃあ君**

が10レベルになったとしたら、どうなってると思うっ？」ってやったら、これはまさしくミラクル・クエスチョン！「いま1レベルで、じゃあ2レベルってどうなってるの？」ってやったら、スケーリング・クエスチョン的な「ゴールについての話し合い」ということになります。

ゲームばかりしている子って「リソース」のない子っていうふうに思われがちですが、ぜんぜんそんなことないですよ。ゲームって、とてもファンタジックだし、そこにはたくさんのリソースがあるのです。

「アイテム」や「スキル」を売るお店

さらに年齢が上がっていくと、ゲームも厳しくなっていくかもしれません。でも大丈夫。

あなたが、こんなアイテムがあるといいな、こんなスキルが手に入るといいな、と思うアイテムやスキルを売っているお店があると想像してみてください。さてまず、あなたはそのお店で、どんなアイテムやスキルを買いたいと思いますか？そして、そのアイテムやスキルが手に入ったとしたら、どんな一日が繰り広げられるんでしょうか？

これも立派にミラクル・クエスチョンです。

変身クエスチョン

眠っている間に、変身したあなた（○○さん）は、どんな一日を過ごすんでしょう？

というのが「変身クエスチョン」ですが、これは特に「今の自分はまったくダメ人間」という自己像を持っている（すなわち自分の内的リソースを認識できていない）クライエントさんには有効です。

こういうクライエントさんに定型のミラクル・クエスチョンをして、なかなか奇跡の一日のイメージは出てきにくいものです。しかしこうして、『○○さん1号』だったとしたら、どんな一日を過ごすと思う？」としてあげると、いろんなイメージが湧いて出てくるかもしれません。

レーザービーム・クエスチョン

定型のミラクル・クエスチョンでは、奇跡は「今晚」起こることになっていますが、もっと先に起こしてもいいし（例えば、試験恐怖とか何か人前でやらなければいけない状況への恐怖なら、

その前日に奇跡を起こしてもよい)、もっと早く起こしてもいいでしょう。

今晚まで待てない！あるいは待たせたくない場合、最近私のはまっているのが「レーザービーム・クエスチョン」です。

この面接が終わったあと、K・R・Dの玄関を出ていかれますよね？ K・R・Dの玄関ドアにはね、実は、目に見えないレーザービームが張りめぐらされているんです。このレーザービームにはね、あなたが抱えているすべての問題を解決してしまう力があるのです。さて、あなたは、K・R・Dの玄関をくぐってレーザービームを浴びて、「本当に奇跡が起こったんだ！」ということに、いったい何から気づかれると思いますか？ (あるいは、そこで気づいたことを、次回の面接で、ご報告ください)

私のはまっているぐらいですから、これ結構効きますよ。

タイムマシンで未来に飛ぶ

ここまででおわかりのように、「解決の世界にピジョンと飛ぶ」という構造さえあれば、その仕組みは、クライエントさんのリソースさえ活かしていれば、何でもよいということです。